

# 自転車損害賠償責任保険等への加入状況、DV防止に関するアンケート実績報告書

くらし・交通安全課  
子育て支援課

「自転車損害賠償責任保険等への加入状況、DV防止に関するアンケート」の実施結果を次のとおり報告いたします。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様に厚くお礼を申し上げます。

## 1 アンケート概要

- (1) 実施期間 令和4年6月8日（水）から6月27日（月）まで
- (2) 対象者数 1,388人
- (3) 回答数 988人
- (4) 回答率 71%
- (5) 回答者属性

### 【年齢層別】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
回答者数	5人	64人	129人	238人	257人	224人	71人
構成比	0.5%	6.5%	13.1%	24.1%	26.0%	22.7%	7.2%

### 【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	246人	100人	533人	18人	91人
構成比	24.9%	10.1%	54.0%	1.8%	9.2%

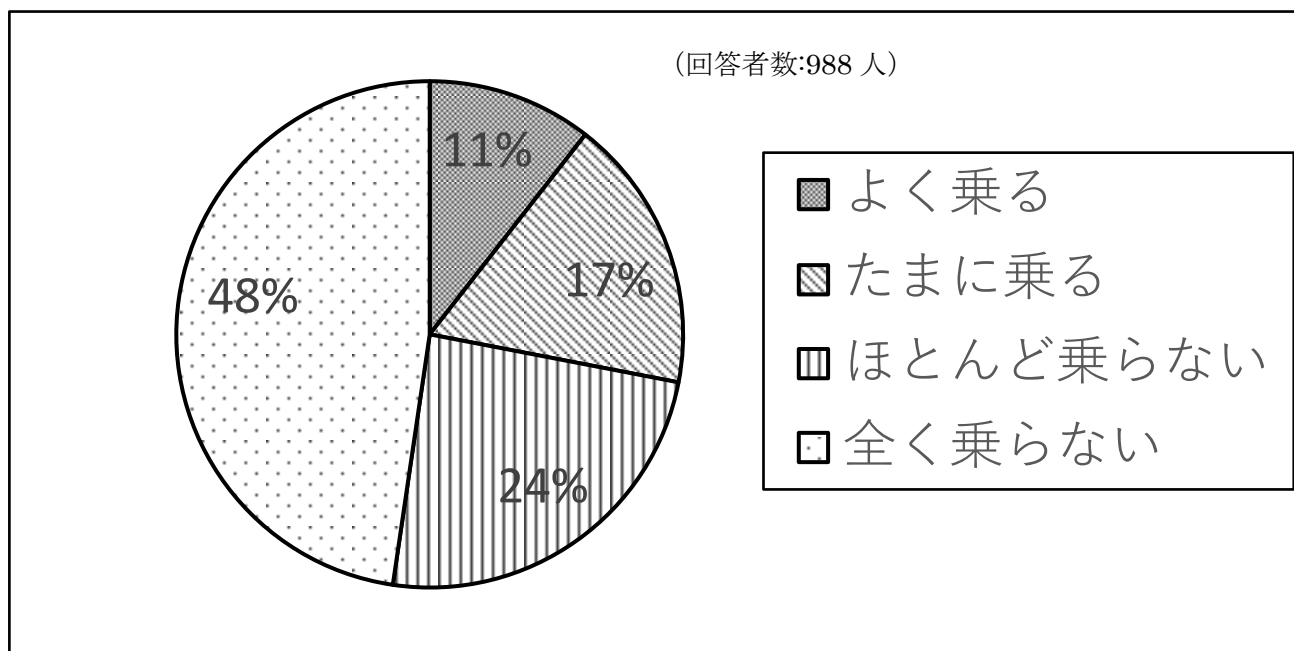
※北 勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町  
朝日町、川越町  
中 南 勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町  
伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町  
伊 賀：名張市、伊賀市  
東 紀 州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

## 2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況、DV防止に関するアンケート結果

Q1からQ8までの8問は、自転車損害賠償責任保険等への加入に関する質問です。

### Q1 自転車について

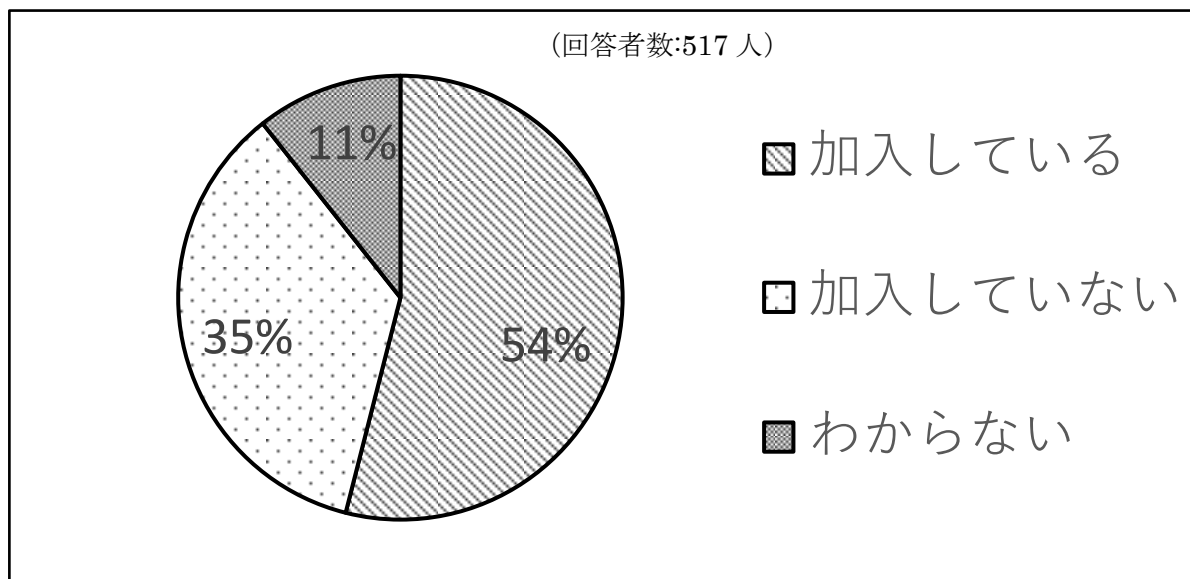
あなたは普段、自転車に乗りますか。あてはまるものを1つ選んでください。  
「全く乗らない」とお答えいただいた方はQ6へお進みください。



あなたは普段、自転車に乗りますかという問いに、「よく乗る」「たまに乗る」「ほとんど乗らない」と回答した方は、合わせて517人(52%)となりました。

## Q2 自転車損害賠償責任保険等への加入について

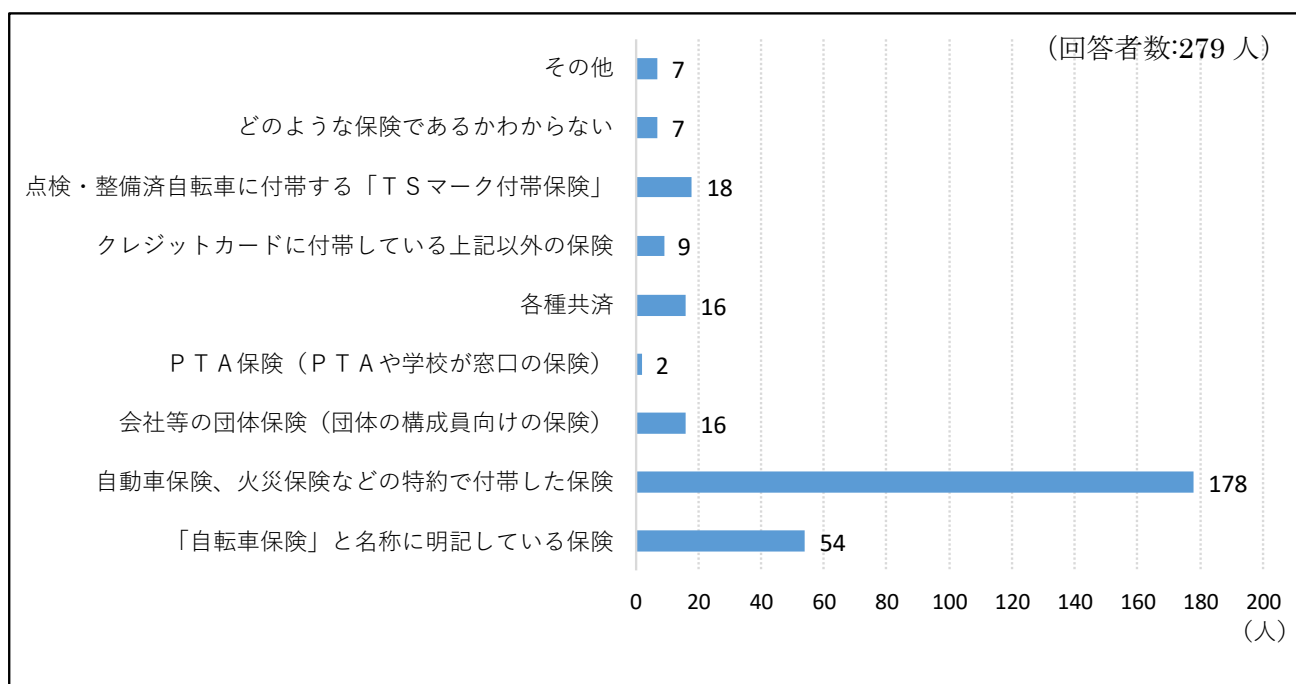
Q1で「よく乗る」、「たまに乗る」、「ほとんど乗らない」と回答された方にお聞きします。あなたは、自転車損害賠償責任保険等に加入していますか。あてはまるものを1つ選んでください。「加入していない」とお答えいただいた方はQ5へ、「わからない」とお答えいただいた方はQ6へお進みください。



Q1で「よく乗る」、「たまに乗る」、「ほとんど乗らない」と回答された方(517人)のうち、自転車損害賠償責任保険等に加入していますかという問いに、「加入している」と回答した方は、279人(54%)となりました。

### Q3 加入している自転車損害賠償責任保険等について

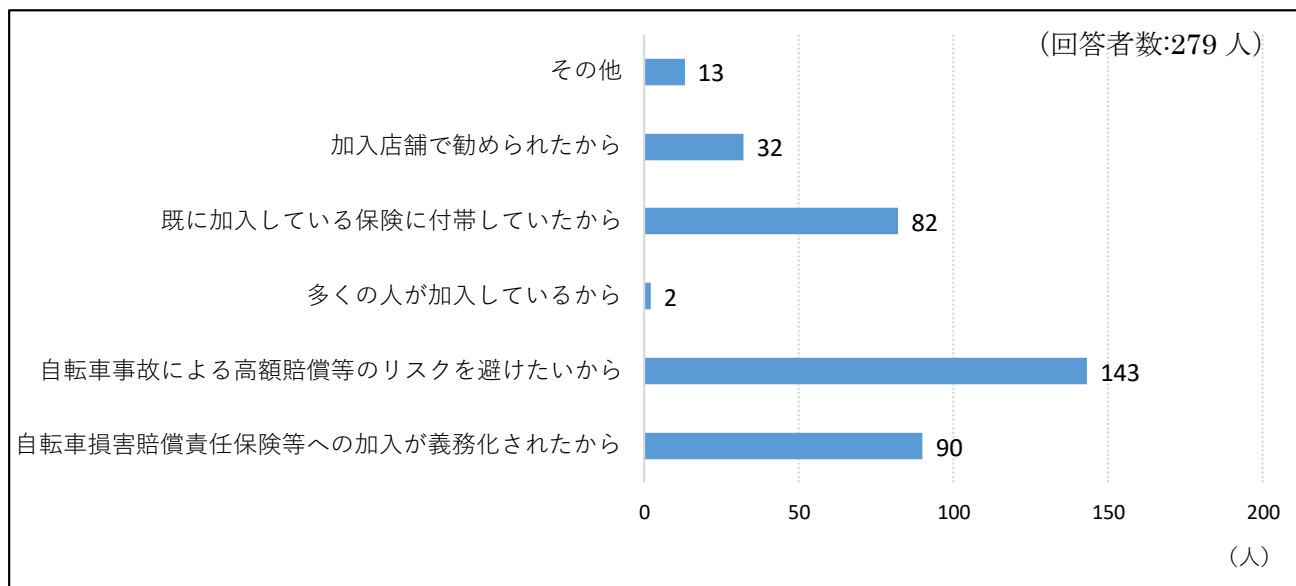
Q2で「加入している」と回答された方にお聞きします。現在あなたの加入している自転車損害賠償責任保険等は、次のうちどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



Q2で「加入している」と回答された方(279人)のうち、「自動車保険、火災保険などの特約で付帯した保険」と回答した方が178人(64%)と最も多く、次いで、「自転車保険」と名称に明記している保険」が54人(19%)、「点検・整備を受けた安全な自転車に付帯される「TSマーク付帯保険」」が18人(7%)、会社等の団体保険または各種共済がそれぞれ16人(6%)などとなっています。

#### Q4 自転車損害賠償責任保険等に加入した理由について

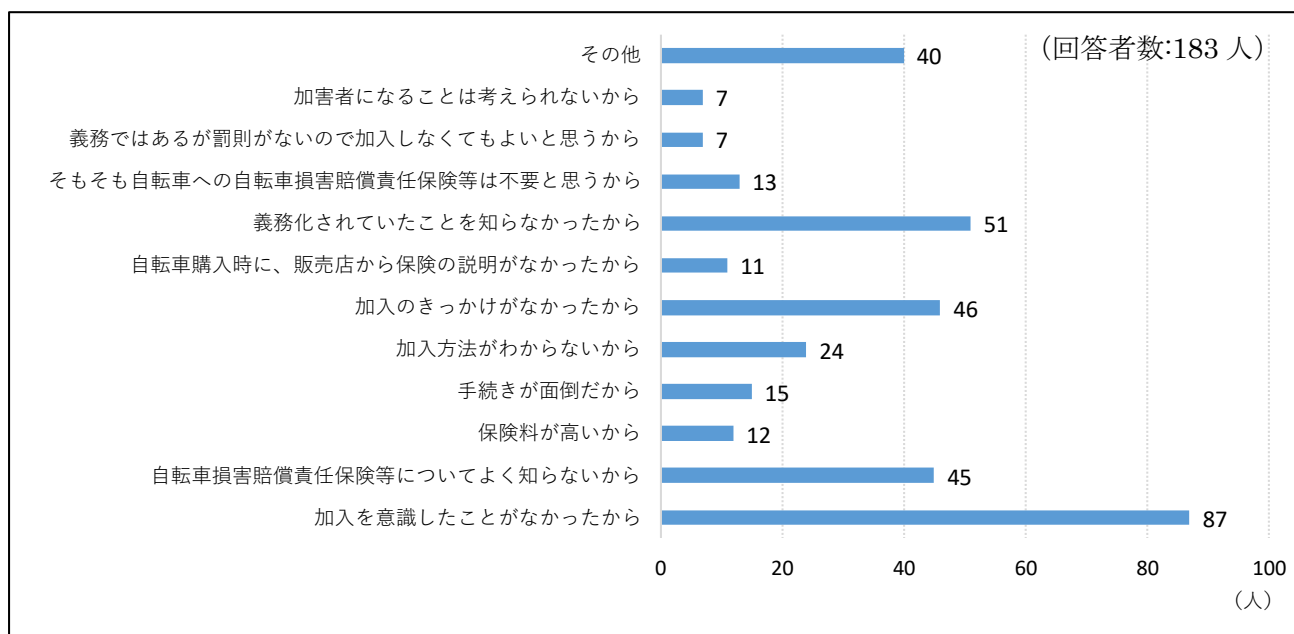
Q2で「加入している」と回答された方にお聞きします。あなたが自転車損害賠償責任保険等に加入したきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



Q2で「加入している」と回答された方(279人)のうち、「自転車事故による高額賠償等のリスクを避けたいから」と回答した方が143人(51%)と最も多く、次いで、「自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化されたから」が90人(32%)、「既に参加している保険に付帯していたから」が82人(29%)などとなっています。

## Q5 自転車損害賠償責任保険等に加入していない理由について

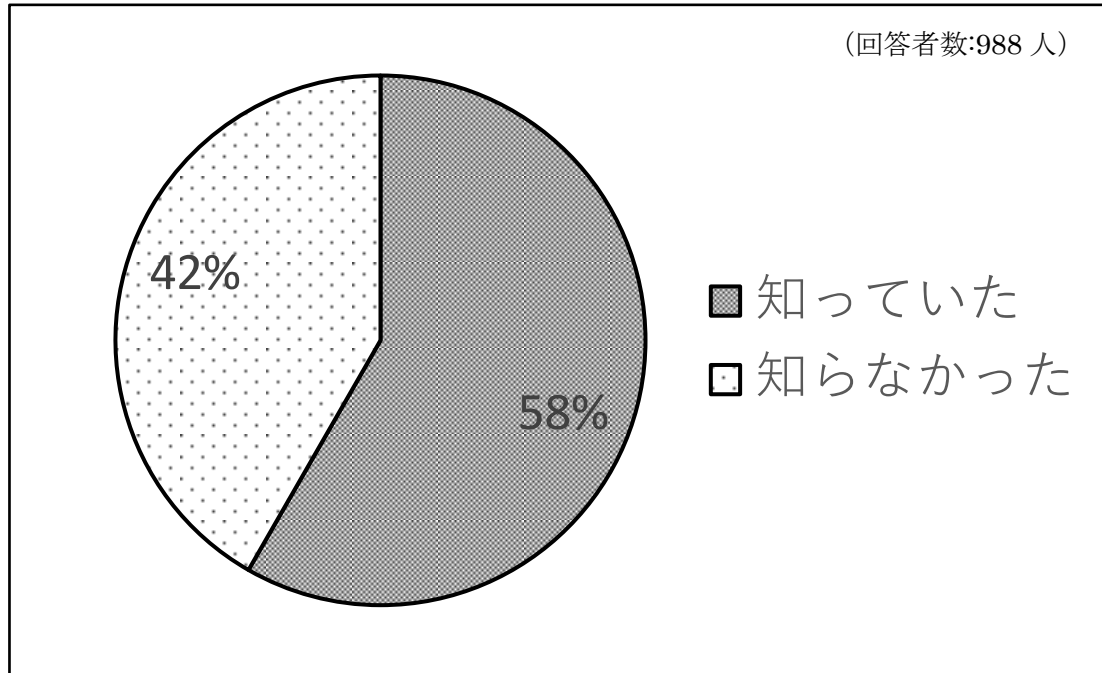
Q2で「加入していない」と回答された方にお聞きします。あなたが自転車損害賠償責任保険等に加入していない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



Q2で「加入していない」と回答された方（183人）のうち、「加入を意識したことがなかったから」と回答した方が87人（48%）と最も多く、次いで、「義務化されていたことを知らなかったから」が51人（28%）、「加入のきっかけがなかったから」が46人（25%）、「自転車損害賠償責任保険等についてよく知らなかったから」が45人（25%）などとなっています。

## Q6 自転車損害賠償責任保険等への加入義務化について

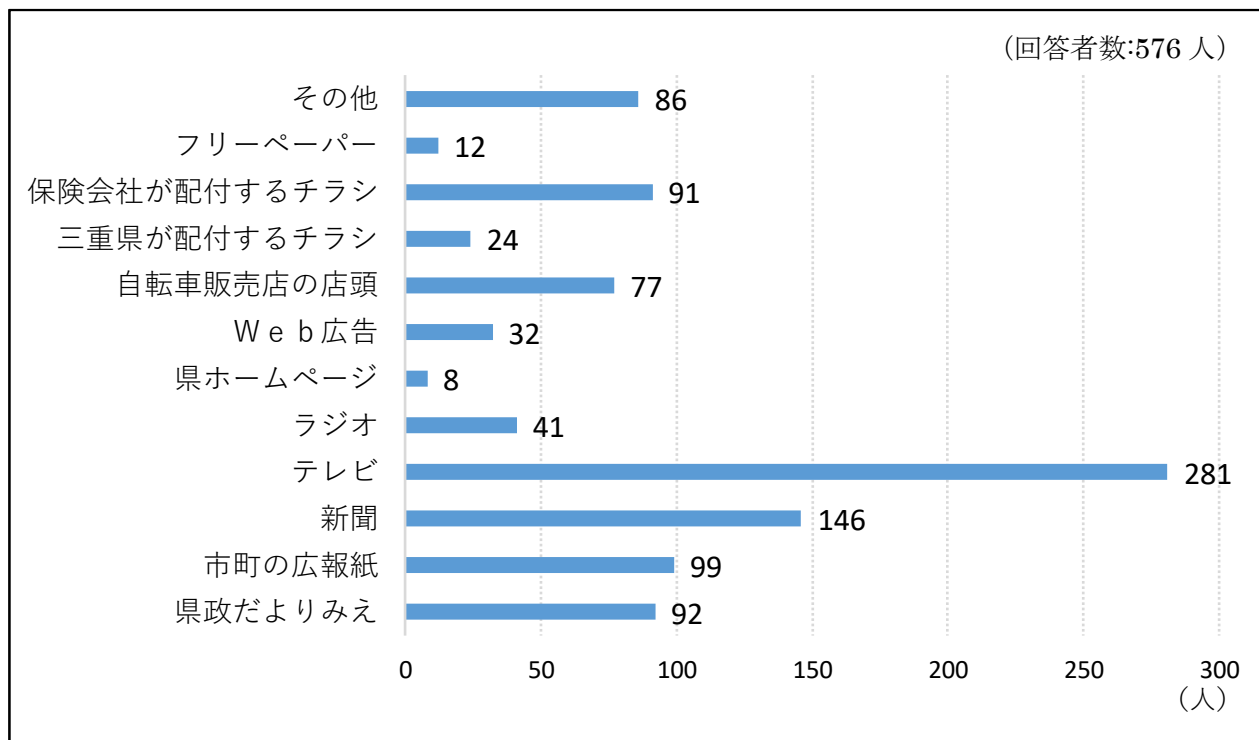
令和3年10月1日から①自転車運転者（未成年者を除く）、②保護者（監督・保護している未成年者が自転車を運転する場合）、③自転車利用事業者、④自転車貸付事業者に対して、自転車損害賠償責任保険等への加入が義務づけられたことを知っていますか。



自転車損害賠償責任保険等への加入が義務づけられることを知っていますかという問いに、「知っていた」と回答した方は、576人（58%）となりました。

## Q7 自転車損害賠償責任保険等への加入義務化の情報について

Q6で「知っていた」と回答された方にお聞きします。あなたは自転車損害賠償責任保険等への加入が義務であることを何で知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

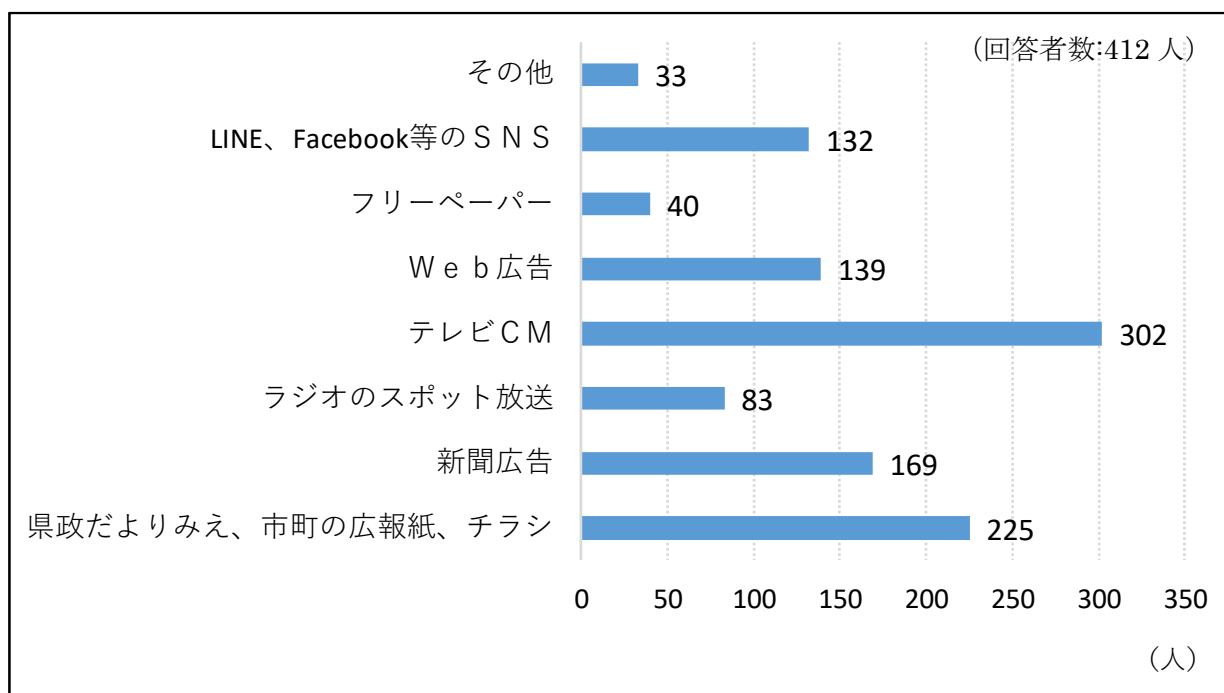


Q6で「知っていた」と回答された方(576人)のうち、「テレビ」と回答した方が281人(49%)と最も多く、次いで、「新聞」が146人(25%)、「市町の広報紙」が99人(17%)などとなっています。



## Q8 自転車損害賠償責任保険等への加入について

Q6で「知らなかった」と回答された方にお聞きします。条例の周知、自転車損害責任保険等への加入促進を図るうえで、どのような広報が有効であると考えますか。あてはまるものをすべて選んでください。

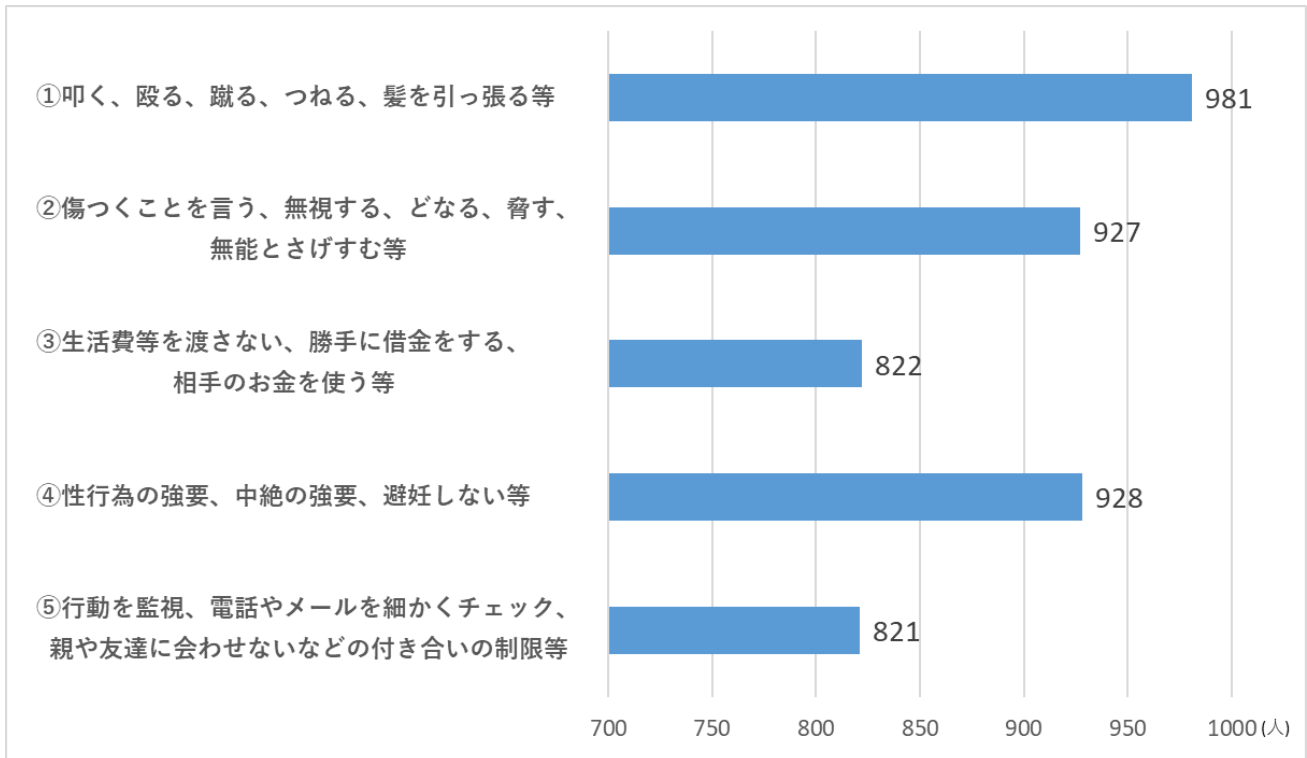


Q6で「知らなかった」と回答された方(412人)のうち、有効な広報の手段をきいたところ、「テレビCM」と回答した方が302人(73%)と最も多く、次いで、「県政だよりみえ、市町の広報紙、チラシ」が225人(55%)、「新聞広告」が169人(41%)、「Web広告」が139人(34%)などとなっています。

Q9からQ14までの6問は、DV防止に関する質問です。

## Q9 DVについて

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった人からの暴力を指します。次の選択肢から、あなたがDVだと思うものをすべて選んでください。



「次の選択肢から、あなたがDVだと思うものをすべて選んでください。」という問いに対して、最も割合の高かった選択肢は「①叩く、殴る、蹴る、つねる、髪を引っ張る等」で、回答者（988人）のうち99.3%の人がDVだと思う、と答えました。次点で「④性行為の強要、中絶の強要、避妊しない等」が93.9%、「②傷つくことを言う、無視する、どなる、脅す、無能とさげすむ等」が93.8%となりました。

一方、「③生活費等を渡さない、勝手に借金をする、相手のお金を使う等」が83.2%、「⑤行動を監視、電話やメールを細かくチェック、親や友達に会わせないなどの付き合いの制限等」が83.1%となり、①②④と比較してやや少ない結果となりました。

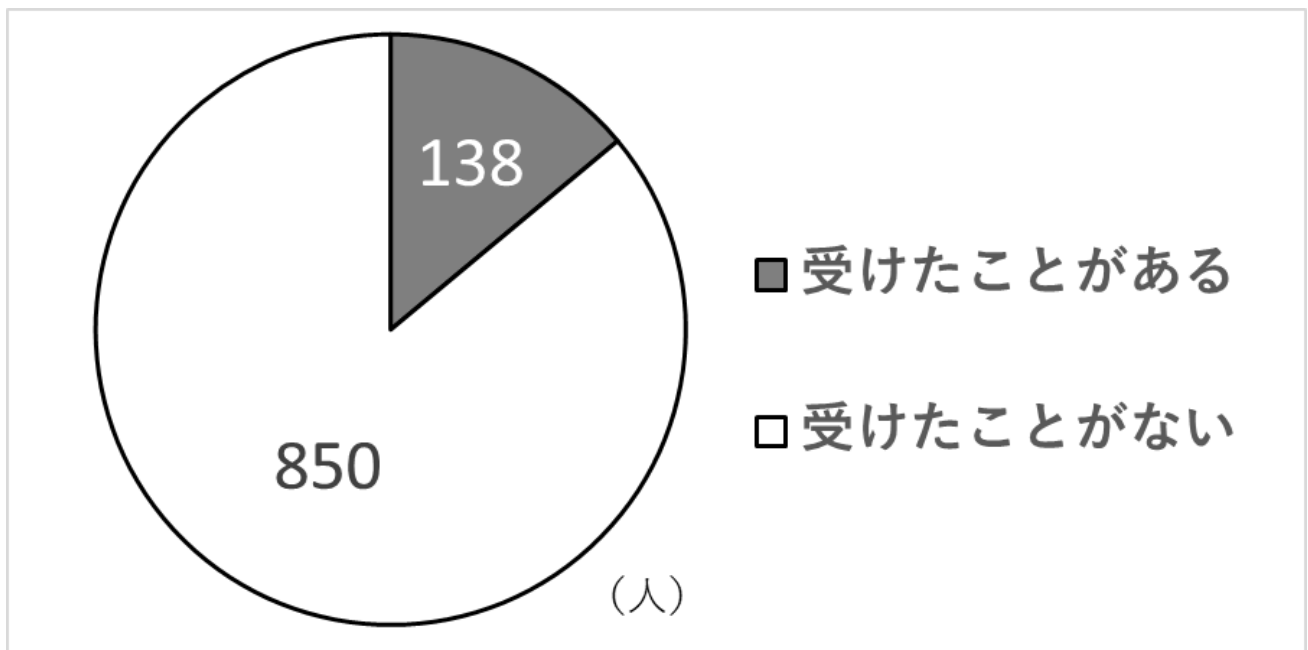
しかし、次の質問にもあるように、①～⑤の選択肢はすべてDVです。（①身体的暴力、②精神的暴力、③経済的暴力、④性的暴力、⑤社会的暴力）

経済的暴力や社会的暴力もDVであるということをご認識していただくよう、引き続き啓発に努めます。

### Q10 DVを受けた経験について①

Q9の選択肢はすべてDVです。(①身体的暴力、②精神的暴力、③経済的暴力、④性的暴力、⑤社会的暴力、これらは重複することもあります。)

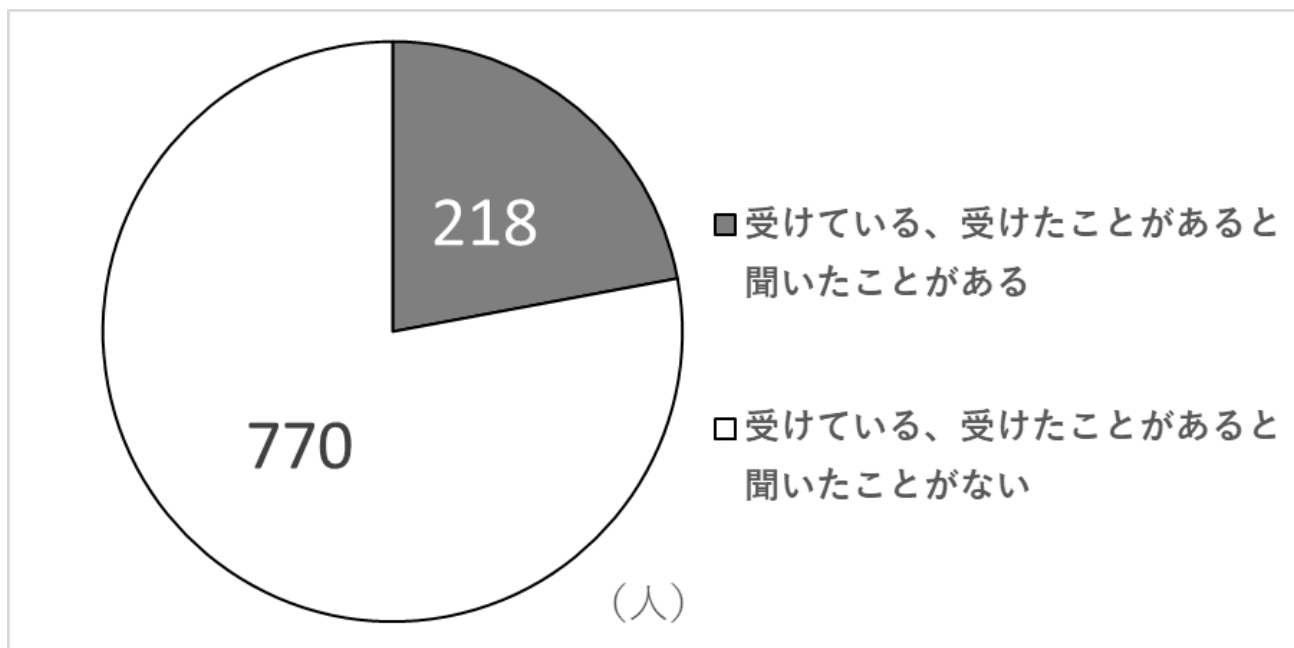
あなたはDVを受けたことがありますか。



「あなたはDVを受けたことがありますか。」という問いに対しては、回答者（988人）のうち、138人（14.0%）の方が「受けたことがある」と答えました。

### Q11 DVを受けた経験について②

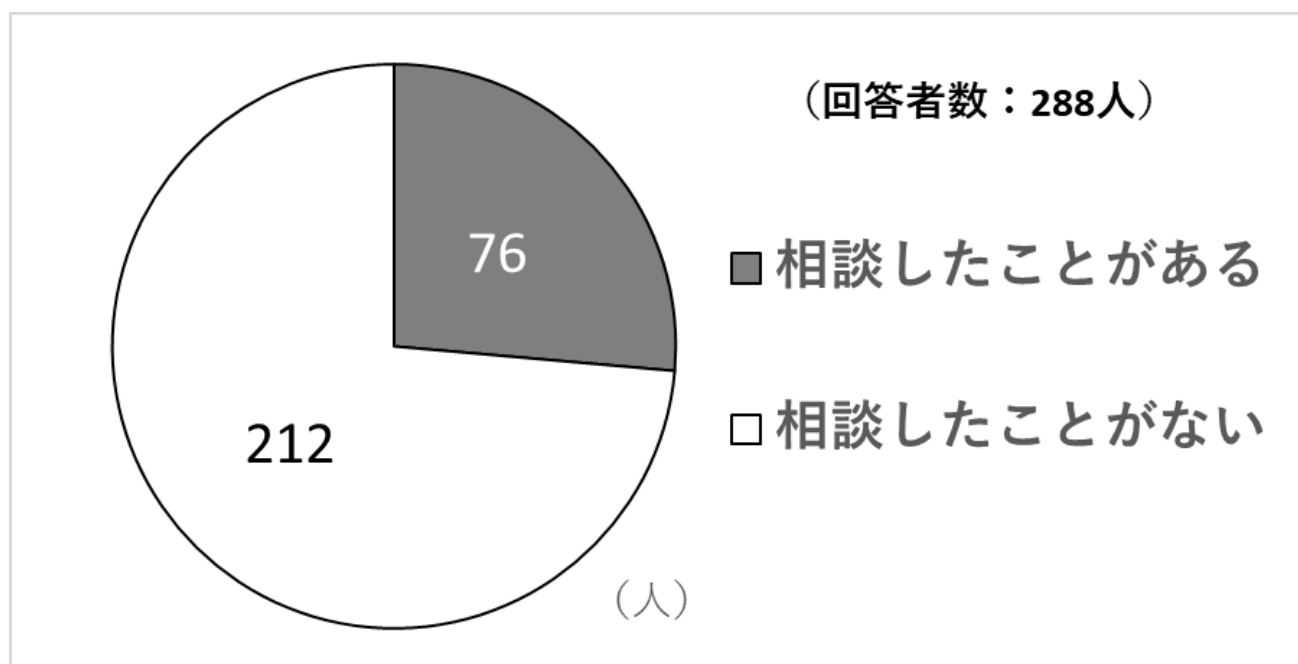
あなたは、あなたの身近な方から、DVを受けている、受けたことがあると聞いたことがありますか。



「あなたは、あなたの身近な方から、DVを受けている、受けたことがあると聞いたことがありますか。」という問いに対しては、回答者（988人）のうち、218人（22.1%）の方が「受けたことがある」と答えました。

## Q12 DVの相談について

Q10、Q11で「受けたことがある」、「受けている、受けたことがあると聞いたことがある」と回答された方にお聞きします。あなた、又はあなたの身近な方がDVを受けたとき、どこ（だれ）かに相談したことがありますか。



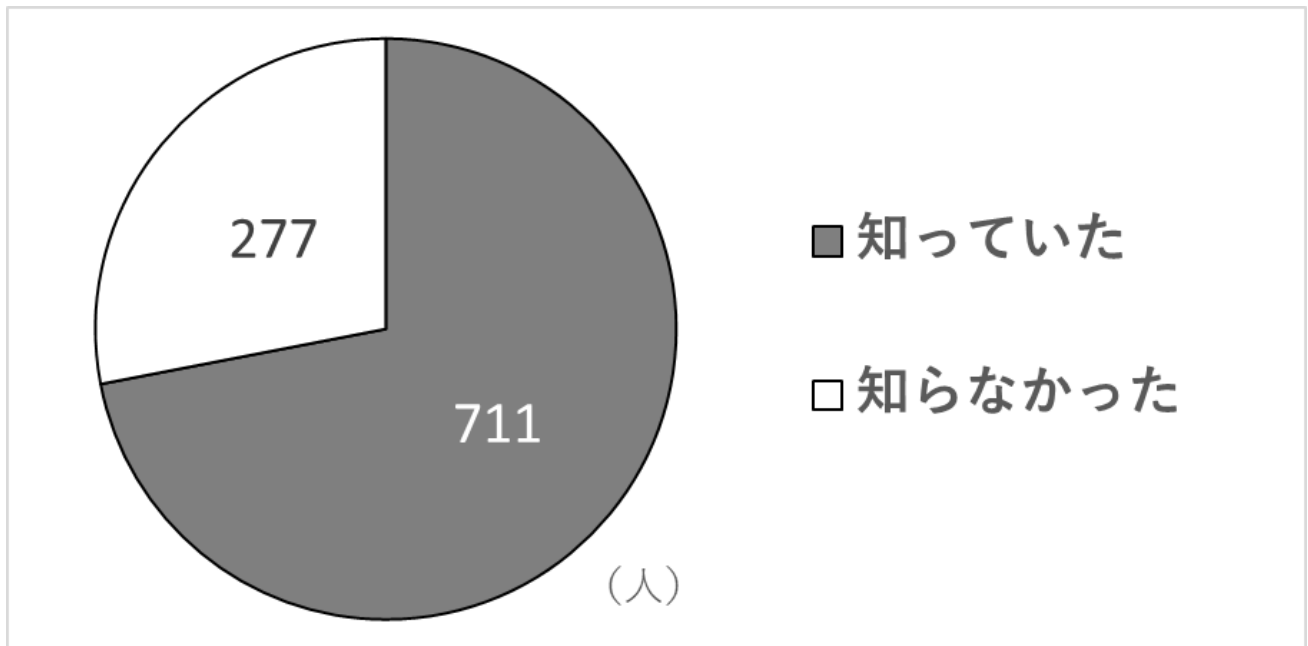
Q10、Q11で「受けたことがある」、「受けている、受けたことがあると聞いたことがある」と回答された方(288人)に、「あなた、又はあなたの身近な方がDVを受けたとき、どこ（だれ）かに相談したことがありますか。」ときいたところ、76人(26.4%)が相談したことがある、と回答しました。

被害にあっている方は様々な理由から相談をためらっている可能性があります。

県や市町等には、Q14にあるよう、様々な相談窓口があります。相談された、被害に気付いた方は、被害を受けている人が相談窓口で相談できるよう、その人を支えることが大切です。

### Q13 面前DVについて

あなたは、子どもの前で親がDVを受けた場合、子どもの心に深い傷を与え、児童虐待（「面前DV」という）にあたることを知っていましたか。



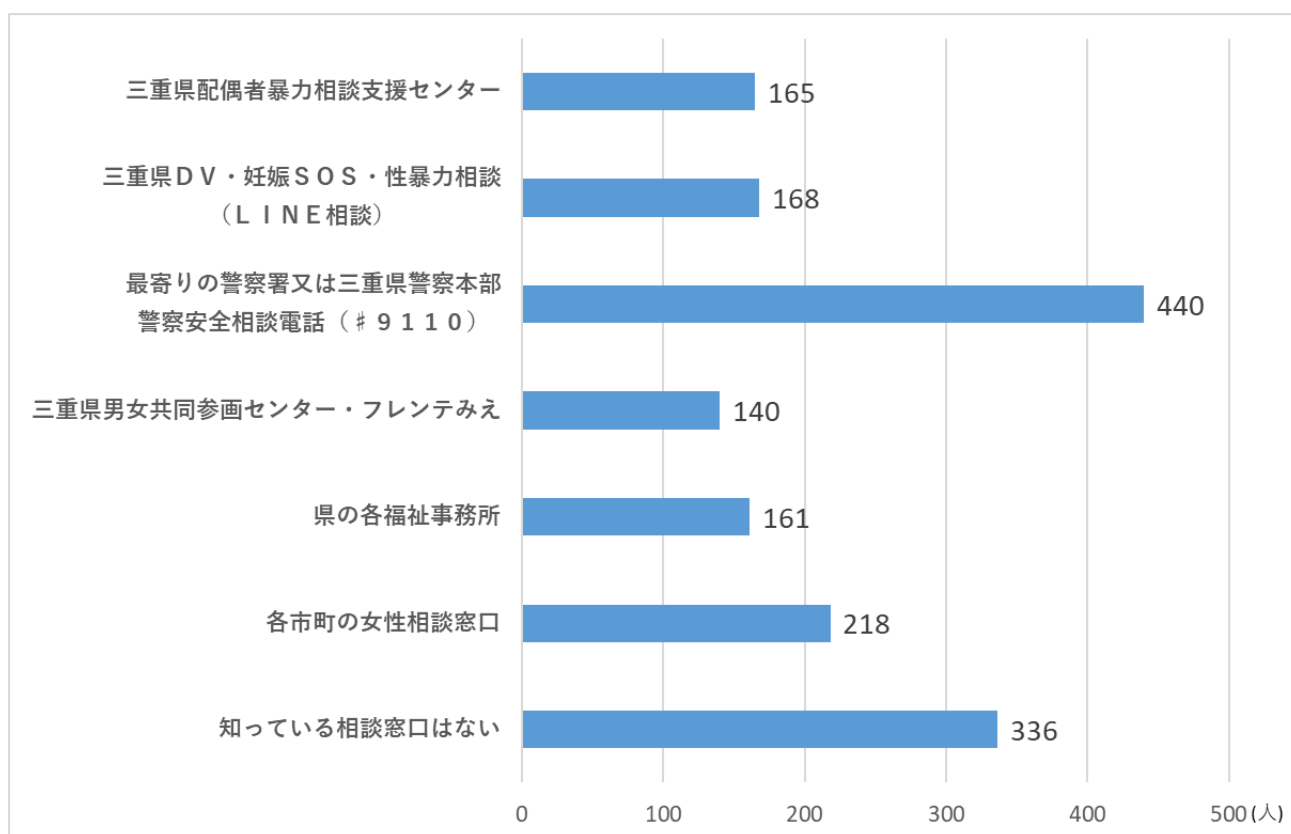
「あなたは、子どもの前で親がDVを受けた場合、子どもの心に深い傷を与え、児童虐待（「面前DV」という）にあたることを知っていましたか。」という問いに対しては、711人（72.0%）の人が知っていた、と回答しました。

面前DVは子どもへの心理的虐待にあたります。また、DV被害を受けている人は、加害者に対する恐怖心などから、子どもに対する暴力を制止することができなくなる場合もあります。

DVは、子どもの成長にとって大切な安全・安心を根底から壊してしまいます。そして、子どもの心や身体に様々な影響を与えられています。

## Q14 DVの相談窓口について

県や市町等では次のようなDV相談窓口を設置しています。あなたが知っている相談窓口をすべて選んでください。



「あなたが知っている相談窓口をすべて選んでください。」という問いに対しては、回答者988人のうち「最寄りの警察署又は三重県警察本部警察安全相談電話(#9110)」を知っている人の割合が44.5%と最も高く、次点で「各市町の女性相談窓口」(22.1%)、「三重県DV・妊娠SOS・性暴力相談(LINE相談)」(17.0%)、「三重県配偶者暴力相談支援センター」(16.7%)、「県の各福祉事務所」(16.3%)、「三重県男女共同参画センター・フレんテみえ」(14.2%)となりました。

一方で「知っている相談窓口はない」と回答した方は34.0%となりました。

DVは自分たちだけで解決するのはとても難しい問題です。相談してみることで、ひとりでは気付かなかった解決方法が見つかるかもしれません。専門の相談窓口では、プライバシーは守られますので、安心して相談してください。